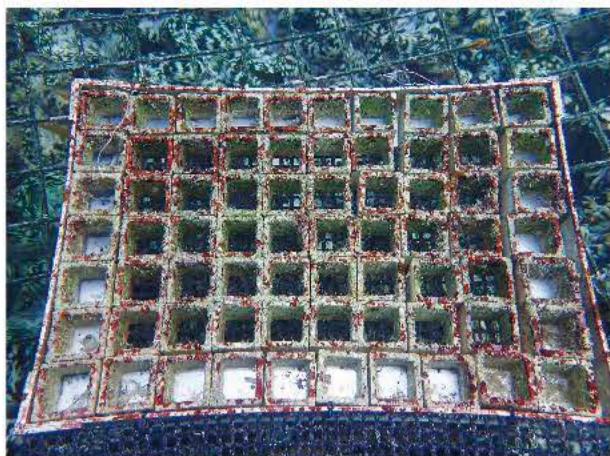


悪循環を断ち切る！

国内最大級の規模を誇る広大なサンゴ礁「八重干瀬（やびじ）」。その八重干瀬に近い池間島では昨年より沖縄県プロジェクトとして、サンゴ礁再生のためのサンゴの増殖・移植の取り組みが進められています。主体となっているのは、池間島のダイビングショップを中心に構成される「池間・八重干瀬会」と、「国立研究開発法人水産研究・教育機構」の皆さん。池間島周辺で採捕（※）した卵つきのサンゴを、狩俣の宮古島市海業センターに移して採卵・着床させ、生まれた稚サンゴを再び池間島の海で見守り育てるといふ、手間も時間もかかるプロジェクトです。



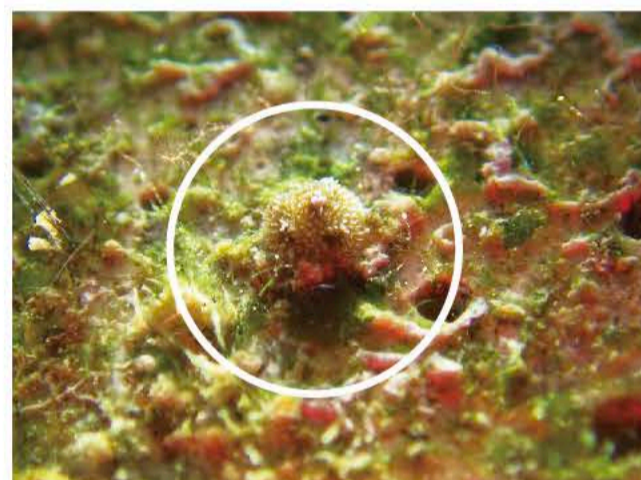
稚サンゴが入った入れ物を海に戻す

池間・八重干瀬会会長・平本彦さんによれば、プロジェクトは想定以上に順調とのこと。「池間の海に着床具を戻したのが2021年の9月で、それから半年が経ちましたが、サンゴの生存率は約80%。通常は25〜50%とのことなので、非常に優秀な数字です。今回はサンゴスペシャリスト・鈴木豪先生の指導があったものの、これまで増殖例のないヤッコミドリイシというサンゴの増殖とあって不安もありましたが、無事に育ってくれてホットとしています（平本さん）」

始まっています、池間島サンゴ再生プロジェクト

移植場所は水温上昇のしにくい場所が選ばれ、オニヒトデの被害を受けない工夫もされています。もし周辺一帯のサンゴがオニヒトデなどで死滅してしまっても、移植サンゴの群生が生き残って産卵すれば、早期の環境回復が期待できるのです。

「サンゴが減って、今まで海の環境は悪くなる一方でしたが、その悪化に歯止めをかけられるかもしれない。八重干瀬



移設から4ヶ月、順調に育つヤッコミドリイシ



増殖場は鉄柱で支えられており、オニヒトデは登ってこられない

のダメージは軽くありませんが、ここ数年は元気に回復している場所もあります。まったくの手遅れでないからこそ、いま始めなければならぬし、きちんと再生に取り組みたい。島の人の観光客それぞれがサンゴに対する意識が変わり、サンゴと魚がいっぱいいる海に向かう時代となつてほしいですね（平本さん）」

※沖縄県漁業調整規則によりサンゴの採捕は禁止されています。本プロジェクトは、特別採捕許可を得て実施しています。決してサンゴを採ったり折ったりしないでください。

もっと海を知ろう！私たちも学んでいます！

宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち

毎月開催する定例会では、活動方針などを決めるほか、海の生き物についての勉強会も行っており、会員以外でもどなたでも参加できます。当サークルの活動目標は、無理なく楽しみながらサンゴを学び、その知識を誰かに伝えられる市民を増やすことで、新規会員大募集中です！

今はコロナウィルス感染拡大の影響で、海での観察会は休止中ですが、落ち着いたら再開しますので、HPをチェックしてくださいね。



- ・問合せ：090-1943-0452（友利）
- ・会員年会費：2,000円
- ・定例会：毎月第一金曜日 19時開始
- ・場所：宮古島市未来創造センター



宮古島海洋少年団

小学生から高校生までを対象に、本年4月に結成された新しい団体です。海洋に親しむ機会を持ち、海上生活に必要な技術や科学的知識を身に付けることで健全な育成を図ることを目的に活動しています。指導員は全員、日本海洋少年団連盟が定めた基準を満たした上で、研修受講及び資格審査を経ています。

団の活動を通し、子ども達に「宮古の海の素晴らしさ、危険性、危機回避能力」を伝えてまいります。



宮古島海洋少年団
JAPAN SEA CADET FEDERATION

- ※現在新規会員募集は停止しております
- ・活動：月2回程度、日曜日
午前8時～午後1時迄
- ・場所：パイナガマビーチ他

